

那須プロジェクト、ここに期待しています！

私と那須プロジェクトとの出会いは、一相談者として、高齢者住宅情報センターに足を運んだことでした。私は実家が岩手で両親はまだそこに住んでいます。両親とも教職に就いて、スムーズに社会生活を送ってきましたが、定年を間近にしたころ、母の体力、精神力ががっくりと落ちたんです。なんでもきちんとなさしていた母なんですが、だからこそなのか、日に5回以上は電話をかけてきて、電話口で泣くようになりまして。こちらの方もちょっと対応しきれない、どうしたらいいんだらう、かといって母をこのまま放っておくわけにはいかないと思っただけです。そこで、解決策があるともないともつかず、助けてくださいという感じで足を運びました。

解決する方法として、地理的に離れていたのでは親世代、子世代も行き来で消耗しますし、一箇所にまとまる必要があると思いました。けれど、私どもが三世代でまとまると10人近くになるんですね。その人数をまかなう広さを都会で購入しようと思うと、ものすごい金額になります。たとえ買えるとしても、それだけの金額を住宅という



コミュニティネットワーク協会会員
森木まゆみさん

ことだけに注ぎ込んで何の意味があるんだらうか、と。もし住宅費用の半分でも残してあれば、子どもたちが世界へ旅行に行つて見聞を広めることにも使えるかもしれないし、様々な可能性が出てきます。でも、それをやめて住宅費に注ぎ込んでしまうと、ローンのために一日のほとんどを働く時間に当て、子どもたちと顔を合わせる時間もほとんどないまま、この10年20年を過ごしてしまうのではないかと思っただけです。

そんな時教えていただいたのが、那須プロジェクトでした。お話を聞くにつれ、「これは私たちだけでなく、都会に住む方の多くが困っていることをかなり部分解決できるプロジェクトなんじゃないか」と思つたようになりました。

特に、私の母が孤立感にさいなまれて、日に何度も電話してきたという大もとは、自分の周りにコミュニティがないという前提がありました。そのコミュニティを、どんな人でも築いていきやすい環境がこの那須では整えら

れる、そう思っただけです。

子育て世代にとつても、都会では食事にいくにも、子どもをベビーカーに入れて完全武装でいかないと、一瞬の間に事故にあうといった危険がありますが、ここだと子どもだけで移動することもできますし、食事をするにしても、他のまったく知らない、けれど同じコミュニティの仲間、先輩と顔を合わせる事ができます。子どもにとつては人生の先輩たちの生きてきた物語を聞いて触発されることもあるだろうし、いろいろ可能性が広がりますよね。

親世代の孤立感解消にもいい、子どもたち世代にとつても体も心も健全に発達する可能性が高い。だから、戦後ずっとアパートやマンション、団地が当たり前で過ごしてきたんですが、考えてみれば、その前に何千年かかって築き上げられてきた稲作の中で培った「共同体の文化」というものがあると思っただけです。自然の豊かなところで教育機能も担い、高齢者の生きがい確保も担うというものすごい機能がそこにあったわけで、それが新しい形で再現されるのがこの那須プロジェクトじゃないかと思っただけです。

高齢者とともに子どもの健全な発達のための新たな処方箋になりうるという意味で、私は非常にこのプロジェクトに期待しています。

那須通信

vol.1
2008年6月
発行

はじめまして。

那須で100年コミュニティをつくる会です。

社団法人コミュニティネットワーク協会

那須プロジェクトは、この3つを提案します！

- * 有形の安心から無形の安心へ。
- * 消費する生活者から、生産もする生活者へ。
- * 自然を消費する生活から、自然と共生する暮らしへ。

立松さんのメッセージ

那須は土地空間が広く、巨大なキャンパスのようなところである。その場所に、どんな未来を描こうとするのか。未来といつても、絵空事のプロジェクトではなく、私たちが現実どんな生活をすればよいかの確かな提言がなくてはならない。

生活をするとは、仕事をし、仲間をつくり、コミュニティを形成し、老後をむかえるということである、人生のプランもマイナスイ面もすべて引き受けるのが、生活をするということなのだ。

生き方まで提言する建築とは、設計者にとつてはまことにやりがいのある仕事ではないか。人がすべて幸福になる建築とは、明晰な展望と、深い思想性が求められる。理想に形を与える仕事であると私は思う。

立松和乎

発行：「那須で100年コミュニティをつくる会」

〒345-0302
栃木県那須郡那須町
大字高久丙1777-434
サンロード池田

電話：0287-76-7433
FAX：0287-76-7434

検索 みなこい新聞
<http://www.minakoi.jp/>

Topics 那須100年コミュニティ
コア施設設計コンペ

賞金100万円

いよいよ募集スタート！

「那須で100年コミュニティをつくる会」では、コア施設の建築アイデアを広く募集するため、設計コンペティションを開催します。最優秀者には賞金100万円が贈られます。

コンペ形式を取ったのは、一人ひとりがコミュニティを支える貴重な担い手であることを尊重でき、交流を保ち、お互いやコミュニティに対する信頼感、安心感を育み、持続することが可能な生活者の視点に立った豊かな空間を自由な発想で提案していただきたかったからです。また、住居だけではなく周辺環境も住まいの環境と定義し、エコロジーやユニバーサルデザイン、使用建材や素材に対しても主旨に沿った提案を期待しています。

審査委員には、浅川澄一さん(日本経済新聞編集委員)、上野千鶴子さん(東京大学大学院教授)、熊野英介さん



6月3日、東京・銀座の「暮らしと住まいの情報センター」にて、記者発表を行いました。

コンペ参加希望者は、応募者氏名・グループ名 応募要綱送付先住所 電話番号 ファックス番号 Eメールアドレス (所有者のみ)を明記の上、コンペ事務局まで。応募作品締切は8月4日、審査の最終発表は8月29日。

【那須100年コミュニティ設計競技事務局】
〒104-0061 東京都中央区東銀座4-14-11
七十七ビル3F
電話：03-3547-3882
FAX：03-3547-3883
Eメール：compe@conet.or.jp
担当：佐藤、安田

「アミタ株式会社代表取締役、立松和平さん(作家)、地元からは福山博之さん(サン・ノール・ホーム株式会社代表取締役)、そしてコミュニティネットワーク協会会員の住友博さん、森木まゆみさんが住まい手視点から参加してくださいませ。

多世代で紡ぐ「100年コミュニティ」を一緒に創つてくださる、意欲ある設計士の方のご参加をお待ちしています！

編集後記

那須通信創刊号、いかがでしたでしょうか？
まだ建物としては、影も形もないプロジェクトですが、少しでもみなさまにイメージをもつただけのように、企画に、開発に、広報に、励みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします！ 次号、7/15 発刊予定です。

お知らせ
那須池田事務所に遊びに来ませんか？



今年3月、那須池田に事務所を開設しました。今、総勢6名のスタッフがここに住み込みながら、新緑に囲まれて仕事をしています。吹き抜けのオープンスペースがありますので、お客様をお招きしてのプチパーティーも行っています。現地見学、プロジェクト説明も随時行っておりますので、ぜひお立ち寄りくださいませ。

【那須池田事務所】
〒325-0302
栃木県那須郡那須町大字高久丙 1777-434
サン・ロード池田
TEL: 0287-76-7433 FAX: 0287-76-7434

那須プロジェクトの全体イメージ

*計画段階です



スパリゾートエリア

温泉、宿泊、統合医療

短期、中期、長期滞在しながら心身を整えるための場です。機能回復や、病气・介護予防のプログラムに参加することで、自分の心身を保ちながら、理解し、付き合うことを学びます。

センターブロック

アトリエ付き住宅、農地付き住宅
特徴のあるライフスタイルを実現するための住宅エリアです。絵画や陶芸、菜園などで自身の趣味や業に合わせて、生活空間を創造できます。

コア施設エリア

ゆいま〜る那須

約70世帯の集合住宅で自立型40世帯程度、介護型30世帯程度の住宅をつくります。「100年コミュニティ那須」の拠点として「自分らしく最後まで社会と関わりながら安心して暮らす」を実現するエリアです。

森林酪農エリア

人の手が入らなくなった森林に365日24時間、ジャージー牛を自然放牧します。森林酪農は、森林に牛が入ることによって、そうと茂っていた下草が整えられ、森林が明るくなって手入れもしやすくなる、人にも森にもやさしい酪農法です。牧場は、仕事(酪農)、教育、癒し、生きがいなど、地域に開かれた多様な場として活用を考えています。



京丹後「森林ノ牧場」の先輩牛です。



立松和平さんが「巨大なキャンパスのようなところ」と称した那須地域。栃木県・那須町豊原に位置する10万坪の計画地は、そう称するにふさわしい環境が広がる山林です。

「那須で100年コミュニティをつくる会」は、2007年夏に実行委員会を設立し、このキャンパスにどんな絵を描くか、検討を開始しました。ほぼ1年かけて練り上げたプランですが、プランはあくまでプラン。ここからはプロジェクトに集うみんなで、描いていきます。

那須プロジェクトでは、一人ひとりが自分らしくいる「場」、いられる「場」、いてもいい「場」を創造します。それは、個人と個人の対等な関係を尊重し、お互いを認め合い、助け合いながら、自分らしさを大切に暮らす場所です。

みんながわがまま言い合ひましょう。ご参加お待ちしております！

●**統合医療のある暮らし**
那須プロジェクトでは、那須の地域資源を活用した統合医療を実践する仕組みを、「統合医療分科会」を発足させて検討してきました。
西洋医学は、即効性のある対症療法は得意ですが、その病の原因である食生活や体質を改善する治療は不得手です。一方で、漢方や整体、鍼灸、薬膳、アロマセラピー、ヨガに代表される東洋医学は、即効性はありませんが、いわゆる「未病」段階から生活の中で予防をして、体を整えるのが得意です。
統合医療とは、西洋医学、東洋医学を問わず、一人ひとりの体質に最もフィットした治療を選択しようという考え方のこと。那須の地域資源を活用して、畑仕事や山仕事、そして地産地消の食べもの、整体やアロマセラピー、ヨガ…。暮らしの中にこれらを「処方」しながら、健康に、いきいきと張り合ひを持つて暮らすための場にします。

●**自分らしく最後まで社会と関わる**
「死は、終末ではなくて完成や。その人の生を生き、死を死にきるためのサポートができるからコミュニティなんや」
社団法人コミュニティネットワーク協会会長で医師の神代尚芳のこの考えが、「100年コミュニティ」の根幹です。
「コア施設である「ゆいま〜る那須」は、高齢者向けの自立型40世帯、介護型30世帯の集合住宅として計画されています。多様な生き方、多様な暮らしをここで安心して実践して、元気なときも弱っているときも、コミュニティに包まれて暮らしたい。それを実現するための、住まいづくりをハード面ソフト面していきたいのです。
6月、このコア施設の設計アイデアを広く社会に募る、設計コンペティションをスタートさせました。
三世代にわたって持続する「100年コミュニティ」のコアとなるべく、素晴らしい「ゆいま〜る那須」を一緒につくっていきましょう。
●**母牛が育む森と暮らす**
森林酪農って知っていますか？人が入らなくなった森林に、山暮らしが得意なジャージー牛を自然放牧する酪農法のことです。森林に牛が入ることによって下草が整えられ、森が明るくなり、人が入りやすい場所となります。森林と人の距離が縮まり、生活に身近になることで、使われなかった森林の資源を活かし、森林の魅力を引き出すこと